



片貝ふれあい公園けやき園竣工式

町民待望の片貝ふれあい公園けやき園がこのほど完成、去る12月12日現地で竣工式を行った。翌13日には午前10時から午後4時まで一般公開を行ない、大勢の町民が訪れ、建物の中を見学したり、庭を散歩したりして楽しんでいた。

片貝式は12日午前11時、で開催された。片貝町らしく花火の打揚げ合図で始められた。佐藤邸の一部を残し、面影を残しながら手を加えて使用可能となようとした。第19代当主の佐治翁が「忍」という字を好んで使い、その精神を説き美行したこと有名だつことから、この建物は「忍字亭」と命名された。竣工式はこの忍字亭の二階

夢膨らむこれから有効利用
町民待望の佐藤邸跡
片貝ふれあい公園けやき園竣工式

片貝ふれあい公園けやき園が完成したふれあい公園が完成して大きな喜びである。公園の名前を公募したところ、小野塚俊次さん提案の「けやき園」に決まった。他市町村にけやき園という名称があるので、少々長くなるが、片貝ふれあい公園けや

き園」とした。公園内には12本の大けやきがそのまま残され、佐藤邸の面影を残している。春のけやきの若葉を観賞する会や、秋の紅葉狩りなどの企画を考えている。また、町民が出来るることは、町民のボランティアでやって行きたい。何でも市に頼るのもどうかと思う」と主催者挨拶を行なつた。

来賓代表として安達稔市議が「当市にとって初めての都市公園が、片貝に出来たことは喜びにたえない。ゆかりの深い場所に出来たことをはう」と主催者挨拶を行なつた。片貝ふれあい公園けやき園は、町民に有効利用していただきたい」と祝辞。

関市長は真人郵便局の竣工式に出席後駆けつけ、「町に来たことは嬉しい」と、宴もたけなわであったことから、簡潔に祝辞述べた。

翌13日の一般公開は晴天に恵まれたこともあって、市ではガス・水道・電気の基本料金、樹木管理費、雪下費などの負担を明らかにしている。また、地元管

理委員会は、今後使用料金等の細部を決めたいとしている。

新潟県能楽連盟創設25周年記念能楽大会が去る11月23日(月)午前9時から新潟市連吟「東北」を披露した。

新潟県能楽連盟理事で紅葉堂の相崎敏代表は、「毎年春、夏、秋の片貝町合同能楽堂の柿落しも兼ねた大会で、県内各地の觀世流宝生流、金春流等から25社中550名の能楽の友が参加して盛大に行なわれた。片貝からは紅葉会(相崎敏代表)のメンバーを初め28名が出

演し、シテ高橋正雄さんで、練習大会の成果を立派な能楽堂の楓舞台で発表出来た。相崎の相手は人口密度では日本一で、平均年令も県内で一番若いので今後が楽しみ」と語っていた。今回出場のメンバーは次のとおり。

佐藤邸跡は片貝町協議会が窓口となり、市に購入して公園としてほしい旨を陳

相崎ケイ子、本田雪江、新野真砂子、吉原利美子、松井久枝、山田絹子、石上力子、大西カヨ子、佐藤マサ、吉田恵美子、本田ノブ、大矢行江、松井和、佐藤和昇、浅田芳夫、小野塚芳一、相崎敏、相崎重明、藤塚健三郎、佐藤二一と佐藤さんは綴つてある。

出版のきっかけとなつたのは、平成8年の片貝町謡曲会二十五周年記念大会の曲会折り、片貝の会員が師と仰ぐ敬一さん(80才)がこのほどB5判で83ページの冊子『片貝町謡曲史』を自費出版した。

翌13日の一般公開は晴天に恵まれたこともあって、市ではガス・水道・電気の基本料金、樹木管理費、雪下費などの負担を明らかにしている。また、地元管

理委員会は、今後使用料金等の細部を決めたいとしている。

片貝ふれあい公園けやき園が正式発足したのは、昭和40年代で意外に新しいが、片貝と謡曲のかかわりはずつと遡上り江戸時代片貝に建てられた郷学「朝陽館」の初代の先生・酒井右内が、学問だけ

片貝町謡曲会が正式発足したのは、昭和40年代で意外に新しいが、片貝と謡曲のかかわりはずつと遡上り江戸時代片貝に建てられた郷学「朝陽館」の初代の先生・酒井右内が、学問だけ

片貝ふれあい公園けやき園が正式発足したのは、昭和40年代で意外に新しいが、片貝と謡曲のかかわりはずつと遡上り江戸時代片貝に建てられた郷学「朝陽館」の初代の先生・酒井右内が、学問だけ

片貝ふれあい公園けやき園が正式発足したのは

